

# 令和4年度事業報告書

公益財団法人肥後医育振興会

熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、もって地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与するため、次の事業並びに支援を行った。

## 1. 医学教育・研究の助成（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する若手の個人又はグループに対して医学研究助成金を授与するため公募を行い、14名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に授与した。

なお、研究助成金の授与とともに「肥後医育振興会学術奨励賞」を付与することとした。

タカシマ ケン

高島 謙（34才） 熊本大学大学院生命科学研究部 免疫学講座 助教  
「核小体ストレスが自然免疫応答を惹起する分子機構の解明」

ツルタ マリコ

鶴田 真理子（27才） 熊本大学大学院医学教育部 博士2年  
（発生医学研究所組織幹細胞分野）  
「胎生期の早期前駆細胞から造血幹細胞への試験管内分化誘導系の構築」

フカミ ヒロタカ

深水 大天（36才） 熊本大学病院 腎臓内科 医員  
「ANGPTL3を標的とした脂質異常症および関連疾患治療ワクチンの開発」

イシイ マサノブ

石井 正将（38才） 地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座 特任助教  
（循環器内科）

「院外心停止患者の性別および年齢がバイスタンダー心肺蘇生の施行に及ぼす影響と神経学的予後との関連」

## 2. 医学国際交流の支援（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する外国人留学生に対して奨学金を授与するため公募を行い、7名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に奨学金を授与し「肥後医育振興会優秀留学生表彰」を付与することとした。

ベガム エムエスティ モニラ

BEGUM MST MONIRA 熊本大学大学院医学教育部 修士課程1年（バングラデシュ）

オウ コウリン

王 浩林 熊本大学大学院医学教育部 博士課程1年（中国）

ボイラズ ディレンシャン

BOYRAZ DIRENCAN 熊本大学大学院医学教育部 修士課程2年（トルコ）

ショウ コウ

鐘 恒 熊本大学大学院医学教育部 修士課程2年（中国）

### 3. 熊本県民への医学医療情報提供活動（公2，公3，収1）

#### (1) 「肥後医育塾」公開セミナーの開催（公2）

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、市民公開セミナーを年3回開催した。

年間テーマに「三大疾病～高齢者の適切な治療～」を取り上げ、3回の講演会を熊本市で行うとともに、毎回、熊本日日新聞紙上で「肥後医育塾」特集を2頁に亘って掲載し、YouTube 公開を並行して行った。

第1回は「高齢者の『がん』治療」～ひとりひとりに合った適切な治療法の選択～（R4.7.30、熊本市医師会館）、第2回は「高齢者の『心疾患』治療」～心疾患の種類とその治療～（R4.11.13、熊本市医師会館）、第3回は「高齢者の『脳血管疾患』治療」～突然の発症に備えて～（R5.2.18、熊本市医師会館）の演題で開催し、3回全てを新型コロナウイルス感染拡大防止のため聴講者を100名に限定した。後日熊本日日新聞紙面（R4.8.26/R4.12.9/R5.3.17）で掲載し YouTube 公開を並行して行った。

#### (2) 第13回「熊本県医療人育成総合会議」の開催（公3）

第13回の熊本県医療人育成総合会議は、「カーボンニュートラル化社会と医療人育成～資源消費削減と代替工夫の可能性を探る～」のテーマで、令和4年12月3日（土）に熊本大学医学部キャンパスで開催した。

周知のごとく、人類の活動に起因する地球温暖化の抑制が世界的なテーマとなっており、日本も、二酸化炭素排出量を、2030年度には2013年度比で46%削減し、2050年には増加量ゼロ（「カーボンニュートラル」）の社会にすることを表明した。

コロナ禍後の社会では、エネルギー源の変更と資源・エネルギー使用量の削減が喫緊の課題として表面化し、医療の現場も医学教育の現場も対応が強制されていくだろう。つまり、これまでの医療や医学教育において事実上唯一無二の価値であった、人命を守り生活の質（QOL）を高めるための活動の最速化が、今後は、資源・エネルギー使用量削減との間でバランスをとることが要請される。医療人に突き付けられた課題は重く、難しい。これらの喫緊の課題について議論した。

なお、開催に関しては実行委員会を設置し会議の内容の詳細を企画・立案した。参加対象者は、医療関係の大学・専門学校等の教育関係者、各医療技術者協会の代表者、病院関係の代表者、行政関係の担当者のほかに新聞等で学生や一般参加者も募り、約100名の参加があった。後日熊本日日新聞紙面（R5.1.14）で掲載し、YouTube 公開を並行して行った。

#### (3) 生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療、その他関連記事の編集及び刊行（収1）

熊本日日新聞社が発行するタブロイド版16頁の総合情報紙「あれんじ」（35万部発行）の第一土曜日号の10面と11面の見開き2頁を使い、健康・医学・医療並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供した。内容としては、「元気の処方箋」（最新の医学医療記事）と「子育て応援クリニック」（小児科関連の医学医療記事）を12回、「慈愛の心・医心伝心」（女性医療人のリレーエッセイ）を8回、「四季の風」（俳句欄）を4回掲載した。以下に「元気の処方箋」のテーマを記載する。

- 4月 アレルギー反応の一つ ～アナフィラキシーとは～
- 5月 早めに医療機関に相談を ～回復可能な気分障害～
- 6月 全身の臓器・疾患にも影響する ～歯周病～

- 7月 様々な課題に応える ～遠隔医療～
- 8月 自分自身や愛するパートナーの健康を守るために知っておきたい  
～子宮頸がんと HPV ワクチン～
- 9月 緊急時に適切な医療を受けるためにも理解したい  
～新型コロナウイルス感染症と救急医療～
- 10月 特別なことじゃないひきこもり ～新しい生き方を探して～
- 11月 自分らしくいきいき暮らすために ～ウオーキング+αで健康増進～
- 12月 女性に多いのはなぜ? ～手指の痛み～
- 1月 それぞれに治療法ある ～尿失禁～
- 2月 一人で悩まず相談を ～円形脱毛症とその治療～
- 3月 命のリレー最後のバトン臓器移植医療 ～大切な臓器提供意思表示～

#### 4. 医学・生物学領域の学会・シンポジウムの助成（公4）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学・生物学領域の学会やシンポジウムに対して次のとおり助成した。

- ① 第122回日本外科学会定期学術集会（R4.4.14～16開催）
- ② 第120回日本消化器病学会九州支部例会・  
第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（R4.10.22～23開催）
- ③ 第37回熊本医学・生物科学国際シンポジウム（R4.11.23開催）
- ④ 第63回日本先天代謝異常学会学術集会・  
第18回アジア先天代謝異常症シンポジウム（R4.11.24～26開催）

#### 5. 医学・生物学領域の研修会・教育セミナー等の助成（他1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学研究会並びに研修会等に対して次のとおり助成した。

- ① 熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成（R4.4.1～R5.3.31開催）
- ② 第81回九州山口薬学大会（R4.9.18～19開催）
- ③ 第23回熊本エイズセミナー国際シンポジウム（R4.10.31～11.2開催）
- ④ 日本蘇生学会第41回大会（R4.11.4～5開催）
- ⑤ 第22回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ（R4.12.11開催）

#### 6. 広報活動事業（他2）

- (1) 本財団の活動状況及び財政状況等を周知するために、広報紙「ニューズレター27号（A4判28頁）」を3,000部発行（R4.8.31）し、関係者へ配布するとともに本財団のホームページ上で内容を県内外に公開した。
- (2) ニュース性の高い分かりやすいホームページを目指し、肥後医育塾及び熊本県医療人育成総会議のYouTube公開やスマートフォン対応を開始し、本財団の多彩な活動内容を県内外に公開した。